

令和6年度 第1回 住吉区地域福祉専門会議 会議要旨

1 日時 令和6年6月6日（木） 午後6時から午後8時

2 場所 住吉区役所 4階 第4・5会議室

3 出席者

(委員)

稲田委員、尾畑委員、西田委員、八牟禮委員、濱本委員、藤居委員、三橋委員、
宮川委員、山下委員

小野アドバイザー

(区役所他)

区長、副区長、関係課長、課長代理、担当係長

住吉区社会福祉協議会 事務局長、地域支援担当係長

4 議題

報告

(1) 住吉区地域見守り支援システム進捗状況について

(2) 地域座談会の開催状況について

(3) 住吉区地域包括支援センター運営協議会報告について

議事

○ 「住吉区地域福祉ビジョン Ver. 3.0」(案)におけるパブリック・コメント実施
結果について

○ 「住吉区地域福祉ビジョン」実現に向けた地域座談会の推進について

○ 【グループワーク】

テーマ：「住吉区地域福祉ビジョン Ver. 3.0」において重点的に取り組むべきこと

5 議事要旨等

○ ビジョン改訂にあたり行ったパブリック・コメント実施結果について

・パブリック・コメント実施結果については、市のホームページにパブリック・コメントの実施結果を載せるページがあるので、そこに掲載される。

・パブリック・コメントの結果、ビジョンの考え方を補強するご意見であり、ビジョンを修正するまでに至らなかったという判断のため、「住吉区地域福祉ビジョン Ver. 3.0」として公表していく。

○ 地域座談会の推進について、委員意見をいただいた。

主な委員意見

- ・コロナの3年間で子どもたちの性格が変わってしまったと感じている。友だち同士が話し合う、遊び合うという場がなくなっている。子どもたちが集まれるイベントをやっていききたい。
- ・コロナ禍で子どもたちが家で過ごさざるを得なかった。情報もネットから得るしかなかったように思う。子どもや子育て世代が集える場が必要と考えている。
- ・コロナ禍が過ぎても、子どもに真剣に向き合ってくれる人というのが周りになかなかいなくなってしまうている。ネットだったら、何か不安なことを言うと、それに対して返事が必ずある。いろんな人から励ましの言葉をもらったり、内容にすごい向き合っていて話を聞いてくれたりする人がネットの中には居る。

これから地域の中で、誰が子どもたちの話を聞いていくのか、子どもたちに向かって、聞く場所、居場所、その居場所の中にいる人、支える人というのをどのように住吉区の中で育てていくかというところが一番難しいところかなと感じている。

- ・地域座談会については、ビジョンを具現化するためには必要なプロセスと認識している。

地域の中で、どうにかしなければいけないという問題意識を持ち始めている人が結構いるにもかかわらず、そうした人たちが集まって、意見を交わし合う場所がないというところで、そこから増進型福祉へどう展開していくのかということを見ると、地域座談会はとても大事なプロセスだと思う。今年は増進型福祉の考え方に基づいて地域座談会を進めていくということなので、皆さんも積極的に関わっていただきたい。

○ 【グループワーク】

テーマ：「住吉区地域福祉ビジョン Ver. 3.0」において重点的に取り組むべきこと

主な委員意見

- ・担い手不足について、地域で何かやっというと思っても、結局、担い手がいなかったらできない。何かやっというとするときの担い手を増やすというところで、何か仕掛けはないか。
- ・町会については、役割があるのだが、住民に町会のメリットとか、町会に入っというところかというところが示せていないのではないかな。あと、一度PTAとか町会に関わったら、引きずり込まれて地域の役員をしなければならなくなるというところが、

担い手不足につながっているのではないか。

- みんなの居場所として、学校をどう活用するか。学校にみんなが集まるという場所になったら、学校をもっと上手に使っていったら、何か新しいことが生まれるのではないか。
- 不登校の子どもとかが15歳のときに進学先を決めるという、そんな人生の選択をするというのを、お子さんとか親御さんだけに決めさせるのか。そういう相談にも乗ってもらえるようなところがあるべきではないか。
- 京都に道に名前があるように、住吉区も各通りに、みんなで参加して道に名前つけたらどうか。それを子どもや高齢者、障がいの方関係なく、みんなで道の名前をつけたら、それが参加の1つのきっかけにならないか。
- 「ゆるやかなつながり」のための具体的な取り組みについて何点かご意見をいただいた。
- 地域福祉について、全住民が対象というよりは、一般の人は自分は対象でないと思っていて、当事者意識がない人が多い。地域福祉づくり、つながりづくりを進めるにあたり、一般の人の意見を吸い上げて、見える形にして、実感を持ってもらうことが大事。
- 地域福祉について、福祉という部分に特化せず、スポーツ、文化活動などの取組みを学校・園と連携して進めていけたら。
- 子どもの登下校時に、高齢者が植木に水やりをしたり、散歩をしたり、外出して見守ることが地域のつながりづくりに有効ではないか。
- 子どもたちにこのまちが好きか聞いて、自分たちの住んでいるまちのことを考えてもらうことが、地域福祉を考える一歩になるかもしれない。

6 令和6年度の開催日程について（予定）

第2回 令和6年10月31日（木） 午後6時から

第3回 令和7年2月6日（木） 午後6時から